



当院の感染対策（新型コロナウイルス等）の取り組み

日頃より当院の運営に関して、患者様、ご家族様を始め、地域の方々にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

新潟県で新型コロナウイルス感染症の発生から1年が経過し、その間、ご家族様には面会制限のほか、検温・手指消毒など、通常と異なる制限をお願いしてきました。

当院には長期療養患者様が多く、ご家族様と会えず寂しい日々を過ごすなか、感染拡大が減少した5月と10月に面会制限を一部緩和し、「短時間・少人数・アクリル板越し」など、濃厚接触を避け面会を試みましたが、感染拡大による「緊急事態宣言」・「新潟県からの警報」等により短期間での取り組みとなってしまいました。

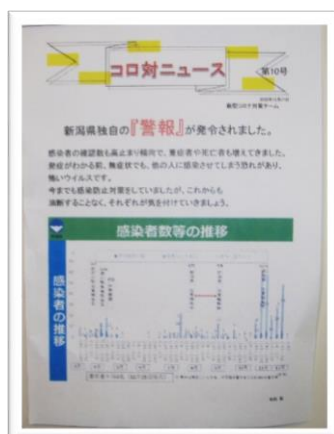
職員に於いては感染委員会を中心に「検温・マスク着用・手洗い・手指消毒」の徹底を全員に呼びかけるほか、「コロ対ニュース」を発行するなど、院内から感染者が発生しないよう日々防止対策を継続しています。

また、恒例となった病院祭や各種イベントについても、例年通りの開催は出来ないため、規模を縮小しての開催となったほか、各病棟中心のレクリエーションに留まることになりました。

コロナ禍で、ご家族様が参加されるイベントの開催は難しい状況ではありますが、患者様に「楽しみ」「癒し」が提供出来るように取り組んでいきたいと思っております。

未だ収束の目途が立たない状況ではありますが、標準予防策を徹底しながら、感染拡大防止に努めて参りますので、引き続きご協力をお願い致します。

看護部長 大谷 勉



小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

第16回 院内研究発表大会

日頃行っている業務の質向上のため、毎年取り組んでいる院内研究発表大会が11月20日～30日までの期間で開催されました。

日常業務をする上で、患者様のより良い環境を模索するなかで思う疑問等を、専門職の視点から課題を定義し取り組んだ成果として以下の5題が発表されました。

1. 患者様の状態変化に応じた臨時プラン用紙の活用・・・1病棟（介護）
～ ケアプランに対する職員の意識の向上 ～
2. 2病棟働き方改革・・・2病棟（看護・介護）
～ チーム間の業務の見える化を図り時間内に全員の業務を終わらせる ～
3. 面会制限下における患者と家族への関わり・・・3病棟（介護）
4. 気づこう 強制しないことの大切さ・・・3病棟（看護）
5. 自発的に活動可能なパーキンソン病患者の運動機能に
関する1年間の変化・・・リハビリテーション

今年は新型コロナウイルス感染症の影響から、全員が集まった開催を避け、資料を配信し全職員からの総評をアンケート方式で行う事としました。

今までは時間の関係で全職員からの意見を得る事は少なかったのですが、今回の方式により個々の意見が得られた事は、今後開催をするうえで新しい発見となりました。

今後も医療従事者として積極的に勉強会を開催し、日常業務の質向上に努める事を期待します。



機能向上委員会 中山 克成



【獅子舞レクを行いました！】

1月20日に毎年恒例の獅子舞レクを開催しました。今年は「コロナ禍」ということもあり開催が危ぶまれましたが、患者様たちに一堂に集まって頂かない、獅子に噛んでもらわない、等、感染対策の徹底により開催する事が出来ました。

規模を縮小しての開催となった為、物足りなく満足感が得られないのでは、と心配しましたが、「獅子に来てもらえるだけでありがたい」「面白かった」と、予想以上に好評で担当者としてもやりがいの得られるものとなりました。



味気ない入院生活にレクは不可欠なものです。少しでもうるおいのある療養生活をもたらされるようこれからもいろいろ工夫していきたいと思えます。

介護福祉士 関 尚子

患者様作品の紹介

作業療法のリハビリでは患者様に様々な作品を作っていました。今回は数ある力作の中から一部の作品を紹介します。クリスマスツリーはお花紙で作ったツリーに毛糸で作ったボンボンやモールを飾り付けました。貼り絵は、折り紙を手で細かくちぎるところから行ってもらい、のりで一枚一枚貼ってもらいました。今年の干支の丑の絵は、小さくしたお花紙を丸めたものを絵に合わせて貼ってもらいました。他にも折り紙や書道など患者様の思いに合わせた作品がたくさんあります。出来上がった作品はリハビリテーション室や病院の廊下に飾って、通る人の目を楽しませてくれています。



リハビリクラーク 山崎 厚子



クリスマスレクリエーション

当院では病棟ごとで定期的に集団での活動が行われております。今回は3病棟でクリスマスツリーの飾り作りを行いました。病棟のスタッフだけでなく、リハビリスタッフも協力させて頂いております。写真には、銀紙を丸めてオーブ（玉の飾り）を作っている所や、毛糸でのボンボンアクセサリを作っているところなどが写っております。いずれの患者様も真剣に取り組んでおり、1人で黙々と作業をする人もいれば、2人で協力して作業を分担して行う人など患者様の個性が表れておりました。こういった活動を通じて、患者様のいつもと違う一面や普段の生活で見ることが出来ない能力を見る事ができます。コロナ禍で他の人との接触が避けられている時代ですが、少しでも病院内でみんなと和気あいあいと関わられる機会を得られれば生活の質があがるのではないのでしょうか。

作業療法士 井ノ川 航



新人職員の振り返りと来年度へ向けての抱負

看護師として働き始めて早くも一年が経ちます。コロナの流行により休みの日に趣味である旅行に行けないのが残念でしたが、患者様や家族の方々も面会が難しい時期が続き不安な日々を過ごされたと思います。



一年間を振り返ると、あっという間に感じますが、さまざまな経験があり多くの知識・技術を学ぶことができました。優しい先輩にも恵まれ、患者様と関わる時間も多く、この病院に入職して良かったと実感しています。

まだ学ぶことは多くあります。患者様の少しの変化にも気付くことができ、安心・安全な療養生活を送れるような手助けをしていきたいです。

2病棟 看護師 川上 美愛

地域連携室便り

令和2年11月12日から新型コロナウイルス感染予防対策として、面会等禁止となり患者様・ご家族様他、関係者の皆様には大変なご迷惑をおかけしております。

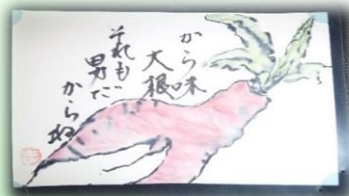


このような状況下にあります。絵画・写真ボランティア・絵手紙ボランティアの皆様からは以前同様に作品展示のご協力をして頂いております。

作品は独特な世界観の油絵、県内の名所・花火・星空等の写真、季節の野菜・果物の絵に一言添えた絵手紙等…。一つ一つ作品からは作者様の人柄や個性、思い等が伝わってきます。作品は、1～3カ月で交換して頂いております。

コロナ禍の終息までには、まだまだ時間がかかり、以前のようなボランティア活動・地域との交流は制限されてくると思います。今後もボランティア・地域の皆様とつながりを持って『できる活動』は継続し、このコロナ禍を乗り越えていきたいと思っております。

地域連携室主任 ソーシャルワーカー 高野 匠



編集後記

丑年は十二支の2番目の干支であることから、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、まだ結果を求める時期ではなく、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とされています。また、先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年と言われています。

国内では先月より、新型コロナウイルスのワクチン接種が医療従事者から始まりました。季節の移り変わりとともに、一歩一歩ウイルスが終息に向かうことを願うばかりです。(伊佐記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地
電話(代表) 0258-83-2680
FAX 0258-83-4416
URL <http://www.sakurahp.com>
E-mail info-01@sakurahp.com
広報委員 中山 克成・風間 麻代・覺張 正樹
下村 健・山崎 厚子・伊佐 純子